Ⅶ　愛知用水感謝の碑

愛知県知多郡阿久比町大字阿久比

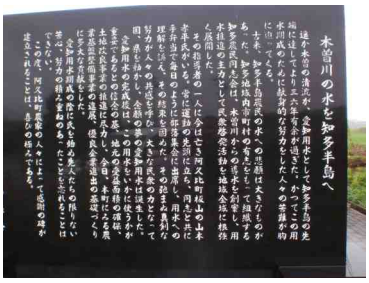
碑表

愛知用水
感 謝 の 碑
愛知用水土地改良区
理事長　石川　純一　書

木曽川の水を知多半島へ

　遥か木曽の清流が愛知用水として知多半島の先端に達してより三六年有余が過ぎた。かってこの用水期成のために献身的な努力をした人々の苦難が胸に迫ってくる。
　古来、知多半島農民の水への悲願は大きいものがあった。知多地域内市町村の有志をもって組織する知多農民同志会は、木曽川からの導水を創案し、用水推進の主力として民衆啓発活動を地域全域に根強く展開した。
　その指導者の一人に今は亡き阿久比町板山の山本孝平氏がいる。常に運動の先端に立ち、同志と共に手弁当で毎日のように部落集会に出席し、用水への理解を訴え、その結束を固めた。その弛まぬ真剣な努力が人々の共感を呼び、大きな民衆の力となって国、県を動かし、念願の夢の愛知用水は誕生した。
　愛知用水の完成後は、この用水をいかに使うかが重要であるとの信念の基、地元の受益面積の確保、土地改良事業の推進に尽力し、今日、本町にみる農業基盤整備事業の進展、優良企業推進の基礎づくりに多大な貢献をした。
　愛知用水期成の陰に氏を始め先人たちの限りない苦心、努力の積み重ねのあったことを忘れることはできない。
　この度、阿久比町農家の人々によって感謝の碑が建立されることは、喜びの極みである。

板山地区維持管理協議会
草木土地改良区
阿久比中部土地改良区
阿久比南部土地改良区
平成十年二月吉日建立



碑裏面

Ⅷ　入鹿池の碑　　愛知県犬山市字篠平

1　入鹿池

大規模老朽のため池事業が昭和 37 年 10 月から着工され、同 47 年 3 月に竣工した。

これは愛知県が事業主体となり、事業費 5 億 6 千 2 百万円を費やした。これを記念して中堤に建てられた。

2　恵斉（けいせい）湖

寛永年間、池が築造されて 360 有余年幕政が終わり 明治から平成の今日まで満々と水を湛える入鹿池

21 世紀を目の前に水の貴重さは更に増し水資源を守り育みその高度利用が池を管理する者の永遠のテーマである日本一を誇る入鹿池が地域発展に貢献し緑豊かな美しい湖であり続けることを心より請い願うものである。（新事務所竣工と入鹿池が永久に恵をもたらすことを祈願して改良区構内に建てられた。）

入鹿池　恵もたらす　永久の湖

平成 10 年 11 月 3 日　入鹿用水土地改良区　　理事長　水野重信

入鹿池主な年譜

寛永 5年 （1628）尾張藩主徳川義直公に六人衆が入鹿池築堤を提言、同10年河内堤完成
明治 元年 （1868）河内堤破壊、同 17 年堤防増築　長 95 間（約 173m）
明治18年　水利土功会組織発足　同32年入鹿用水普通水利組合設立
昭和27年（1952）入鹿用水土地改良区設立、同32年　愛知用水公団事業に地区加入
昭和58年　愛知用水二期事業着工、平成12年愛知用水二期事業パイプライン化工事完成
平成10年（1998）入鹿用水土地改良区新事務所竣工（11 月 3 日）
平成13年　新取水塔完成
（平成16年度　愛知用水二期事業(水路等施設))完了、同18年度（牧尾ダム堆砂対策事業完了））
平成17年度　入鹿池高度利用開始（4/1 ～ 30 、10/4 ～ 3/31）

入鹿池高度利用とは

愛知用水土地改良区地域の冬期（10/4 ～ 4/30）畑地かんがい面積が 1684ha 増加したため、不足する冬期かんがい用水 5252 千ﾄﾝ（※ 1）を入鹿池から幹線水路へ送水するものである。　※ 1 ＝冬期かんがい水量 S23 ～ 42 の 20 ヶ年平均